

飲酒運転撲滅

～悲劇を繰り返さないために～

私たちは「**生かされている**」。
どうか、**忘れないで**。

あの日、私は大切な3人の子たちと離れ離れになりました。「どうして、私は助かったんだろう？」私の心の中は、重苦しい罪悪感で、いっぱいです。

でも、私はこの20年間、自分が「生かされている」ことの意味を、自身に問い続けています。

私たちの「命」というのは、永い間、たくさんの人たちの命が繋がりが続いて、現在、ここに存在しています。だから私たちは、たくさんのおかげで今、ここに「生かされている」のです。たくさんの人たちの優しさや愛情に「生かされている」。このことを忘れてはいけません。

愛する3人の子たちが、その命をかけて私に

残してくれたのは、「生かされている」という、いちばん大切な「命のメッセージ」でした。

私は、被害者として、大切な家族を失った母親として強く訴えかけます。飲酒運転は、お酒を飲んだドライバーが、自ら選んで犯している重大な罪です。こんなことで尊い命が奪われては、絶対にいけない！

私たちは「生かされている」。このいちばん大切なことを忘れたとき、飲酒運転の悲劇は起こってしまふ。

飲酒運転のない世の中で幸せに生き続けてほしい。皆さんの人生が安全に守られますように、私はずっと祈り続けています。



大沼 かおりさん
(事故当時：大上かおり)

海の中道大橋での飲酒運転事故で犠牲になった幼児3人の母。講演活動を通じて、命の尊さと飲酒運転の撲滅を社会に強く訴えかける。

【飲酒運転撲滅啓発冊子「TOMOs」Vol.27より引用】

海の中道大橋事故 平成18年8月25日

家族5人が乗った車が、福岡市東区の海の中道大橋を通行中に酒を飲んだ男(当時22歳)が運転する車に追突され、橋から海に転落。当時1歳から4歳の幼児3人の命が奪われました。加害者は飲酒運転の発覚を恐れて現場から逃走。この事故は飲酒運転の危険性を社会に強く訴え、翌年の道路交通法改正(飲酒運転罰則強化)の大きなきっかけとなりました。

粕屋町事故 平成23年2月9日

歩行中の高校生2人が、酒を飲んだ男(当時35歳)が運転する車に跳ねられ、命を奪われました。海の中道大橋事故に続き発生したこの事故は、飲酒運転の悪質性と危険性を改めて社会に突きつけ、飲酒運転撲滅への動きを加速させる要因となりました。



▲「飲酒運転根絶フォーラム2026」では、粕屋町事故の被害者が通っていた博多高校の書道部が、飲酒運転根絶への思いを込めた力強いパフォーマンスを披露した。

「福岡県飲酒運転撲滅県民大会」開催

悲惨な事故を決して忘れることなく飲酒運転撲滅への決意を新たにするため、令和8年度福岡県飲酒運転撲滅県民大会を開催します。

日時：令和8年8月25日(火)

場所：なみきスクエア なみきホール(福岡市東区千早)

内容：飲酒運転「ゼロ」を誓う黙とう

飲酒運転撲滅活動功労者表彰式 など

※事前申込・参加費不要



▲令和7年度福岡県飲酒運転撲滅県民大会の様子